



園だより 1月号

新宿区立西戸山幼稚園 令和8年1月8日発行

「種まきしない花壇」

園長 佐藤 淳穂

新年あけましておめでとうございます。

穏やかな元旦を迎えた2026年が始まりました。子どもたちが健やかに成長し、子どもたちを囲んでご家族の皆様が、そして園を応援してくださるすべての方が笑顔になる一年となりますよう、あらためて願う新春です。

園庭には「種まきしない花壇」があります。購入した土を花壇に入れ、そのままにしておいたらどうなるかを年長児が試す活動をしています。昨年度は、種をまかなくても春には小さな芽が出て、いつのまにか雑草園になりましたが、その頃には年長児は一年生になってしまい見届けることができませんでした。そこで、今年の年長児は前回よりも早めの時期にこの活動を始めることにしました。

運動会が終わった頃に黒土を入れ、定期的に観察しています。ところが、なかなか変化が見られません。「鳥が糞をして木の実を落とす」「風がタンポポの綿毛を運ぶ」など自然の不思議や命のつながりを感じられる機会になればと思うのですが、正月が明けても花壇には数枚の落ち葉が乗っているだけです。

年末には何も起こらない花壇を前にして「芽が出るにはもっと時間がかかるんじゃないかな」とAさん、「去年のすみれぐみさんはやっぱり種をまいたんじゃない?」とBさん。気温やいろいろな偶然が重なって生まれる現象がある一方で科学的な根拠に裏付けられる現象もあります。我々の経験不足や無知を思い知ったり、知らないからこそ「どうして?」「次はこうしてみたら」という問い合わせが生まれて探究したくなったり…わくわくが止まらないのです。

12月には(財)日本生態系協会主催のビオトープコンクールで、本園が「学校・園庭ビオトープ賞」をいただきました。この賞は、学校・園庭ビオトープを積極的に維持管理活用する取り組みに対して表彰されるものだそうです。トンボが生まれる池の改造や腐葉土づくりなど、園庭環境の工夫や子どもたちの活動が認められたことをうれしく思います。2月8日には東京国立博物館にて「文部科学大臣賞」「ドイツ大使館賞」など優れた実践をされた上位5位の学校・園の発表大会があります。これら他校・園の取り組みからヒントを得て、本園の魅力ある環境づくりにつなげていきたいと考えています。

これまで経験したことのないスピードで世の中が変化しています。情報があふれ、AIを頼る生活になっている今、子どもたちが自分の目で見て、触れて、感じる、そして考える体験を重ねることが重要であることは言うまでもありません。今年も子どもたちが学び合える環境の充実に努めていきたいと思います。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

